

割を果たす職員には、処遇での差をつけるべきと考えている。本市のエンジンである職員の労苦に報いるため、早急に全ての職員を対象とした人事評価を提案する。

A 人事評価については、今年度から一部の職種を除いた全ての係長級職員と先行実施の3部署の一般職員を新たに対象に加え試行している。しっかりとした制度にしないと形骸化したり、職員の意欲の低下につながるため、まずは、26、27年度も試行実施した上で、定着させたい。また、再任用職員についても、評価の対象とし、今後評価の方法等を検討したい。

都市住民の田園回帰による移住について

山口 弘宣 議員

Q 内閣府が8月に発表した世論調査では、都市部に住む若い世代の農山漁村への定住願望が増加し、田園回帰の流れが裏付けられたとしている。特に九州や中国地方での動きが活発だと言われているが、首都圏から地方への移住の増加や促進策について、どのような見解であるかを尋ねる。

A 若い世代の地方への移住が増加傾向にあることは、大いに歓迎すべきことと考えている。本

市においては、ことし8月3日に東京のNPOふるさと回帰支援センターで開催された長崎県主催による移住相談会に参加しており、情報提供などを行った。今後、可能な限りこのような機会を活用し、積極的に本市の情報提供を行いたいと考えている。

三浦かんさく会館維持費助成を求める

里脇 清隆 議員

Q かんさく会館の維持費はこれまで、住民主導型地域活性化事業の予算で賄ってくださっていると言われてきた。一般の公民館とは違い、三浦地区全体で地縁団体をつくり、管理され、地域や多くの団体が利用する三浦地区のコミュニティ的な位置付けがなされるべきである。継続的な維持運営ができるよう住民主導型地域活性化事業とは別に補助を予算化すべきである。

A かんさく会館は地縁団体で管理されており、維持費を市が出すということには論議があるところだが、住民主導型地域活性化事業でいつまでもやるというのはいかなものかと考えている。平成27年度までは現状のやり方で対応するが、議会の声を聴き、地域の方々とも相談して、できれば27

年度中には方向付けを行いたいと考えている。

松原地区人口増加対策について

村上 秀明 議員

Q 旧八幡丸商店から中山モータース、ファミリーマートにかけての国道西側の水田地域に住宅団地を整備してほしいという地元からの強い要望がある。現在の良好な環境を守りつつ、松原地区の活性化を進める唯一の事業として地元が強く願っている要請活動となっている。市長の考えはどうか。

A 松原地区の人口は微減であるが、松原小学校の児童数の減少は深刻に受け止めており、行政としても何とか解決したいという思いである。このため、松原地区の住宅政策の要望については、しっかりと受け止め、住宅建設の可能性について積極的に取り組み、ここ1、2年のうちに何らかの方向付けをしたいと考えている。

行政としての歴史認識について

中瀬 昭隆 議員

Q 競艇場の裏に以前国立真珠研究所跡があった。真珠のモニユ

メント建立のため、県の養殖組合の役員が市長に面会を求めたが、担当者が対応し、更地での返還要求を受け、真珠養殖発祥記念碑は長崎、モニユメントは佐世保の鹿子前に建立された。天正遣欧少年使節がローマ法王に真珠を献上したと聞くと、本市に記念碑はない。市長は率先して大村の歴史に目を向けていただきたいがどうか。

A 歴史を知ることが未来への指針を得ることと考えており、郷土の歴史を認識し、残していくことの重要性を理解している。そのため、市制70周年を機に、新たな大村市史を半世紀ぶりに編纂することを決断した。市民の皆様には、市史全巻に満遍なく目を向けていただき、本当に素晴らしい大村の歴史に関心を持っていただき、お読みいただくことをお願いしたい。

